

北海道浮魚ニュース

令和 7（2025）年度 6 号

2025 年 7 月 28 日

道総研 水産研究本部 函館水産試験場

【URL】 https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo_news.html

◎スルメイカ漁場一斉調査結果

6 月 23 日～27 日および 7 月 8 日～11 日の期間、北海道南部日本海および太平洋側の恵山沖で、函館水産試験場調査船金星丸（151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備）により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・スルメイカの分布密度は非常に低く、平均 CPUE は 2010 年以降で最も低い値でした。
- ・スルメイカのサイズは昨年および過去 5 年平均より小型でした。

1. 水温分布（図 1）

2025 年と 2024 年の調査における、各調査点とスルメイカの CPUE、深度 50m の水温分布を図 1 に示しました。2025 年の日本海側の漁獲調査点の表面水温は、6 月の調査点では 17.7～19.1℃、7 月の調査点では 18.0～24.0℃（昨年 6 月調査：15.5～17.2℃）でした。深度 50 m 層の水温は 6 月の調査点では 7.6～16.1℃、7 月の調査点では 9.2～13.4℃（昨年 6 月調査：6.8～11.0℃）でした。

太平洋側の恵山沖 (St. 14) では 7 月における、表面水温が 18.0℃（昨年 6 月調査：16.0℃）、50 m 深が 13.4℃（昨年 6 月調査：8.2℃）でした。

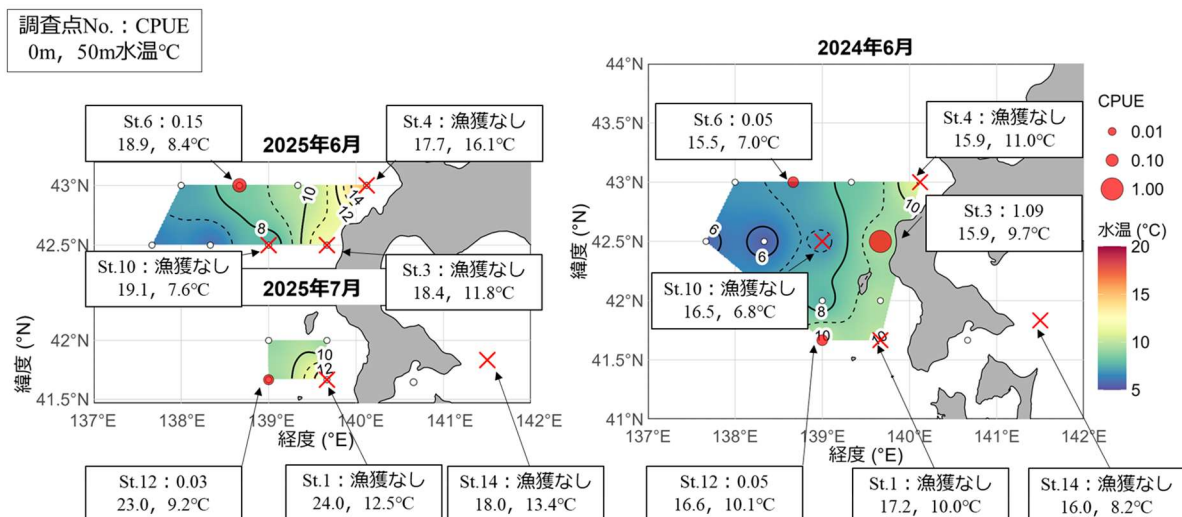


図1 スルメイカ漁獲調査結果と深度 50 m の水温分布図（左：2025 年、右：2024 年）
矢印の先は漁獲調査点で●の大きさは CPUE に比例。○は海洋観測点

2. スルメイカの分布密度（図1、2）

日本海の漁獲調査は計画していた7地点のうち、6地点で実施できました。漁獲調査を行った6地点におけるCPUE（2連式イカ釣り機1台1時間当たりの漁獲尾数）は0～0.15（昨年：0～1.09）でした（図1）。CPUEが最も高かったのは後志西方沖（St.6）の0.15で、それ以外の5地点は0あるいは0.03と低い値でした。漁獲調査地点の平均CPUEの経年変化を図2に示しました。2025年の平均CPUEは0.03で、過去5年の平均値（0.81）を下回り、2010年以降で最も低い値となりました。

また太平洋側の恵山沖（St.14）では漁獲はなく、CPUEは0（昨年：0）でした。

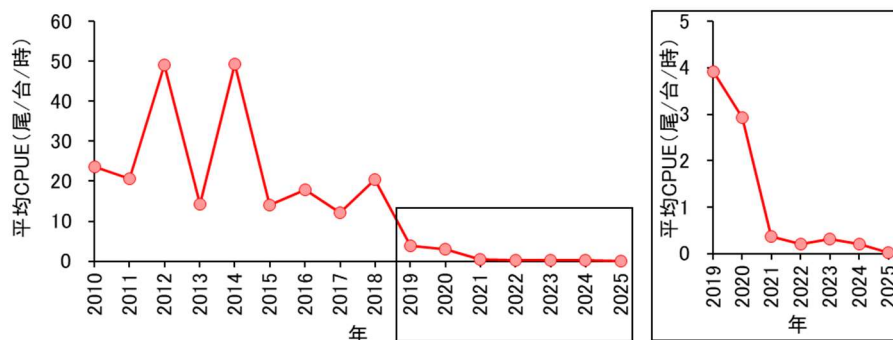


図2 日本海の漁場一斉調査における平均CPUEの推移、右は2019年以降の拡大図

3. スルメイカの大きさ（図3）

調査で漁獲されたスルメイカの外套長組成を図3に示しました。今回の調査で漁獲された日本海側6地点のスルメイカ外套長（胴長）の範囲は6～12 cm（昨年：4～17 cm）でした。出現比率が高かった外套長（モード）は、明瞭ではありませんが、6 cmと8 cmの個体が多くみられました（昨年：14 cm、過去5年平均：15 cm）。今回の外套長組成は2024年および過去5年よりも小型のものが多くみられました。

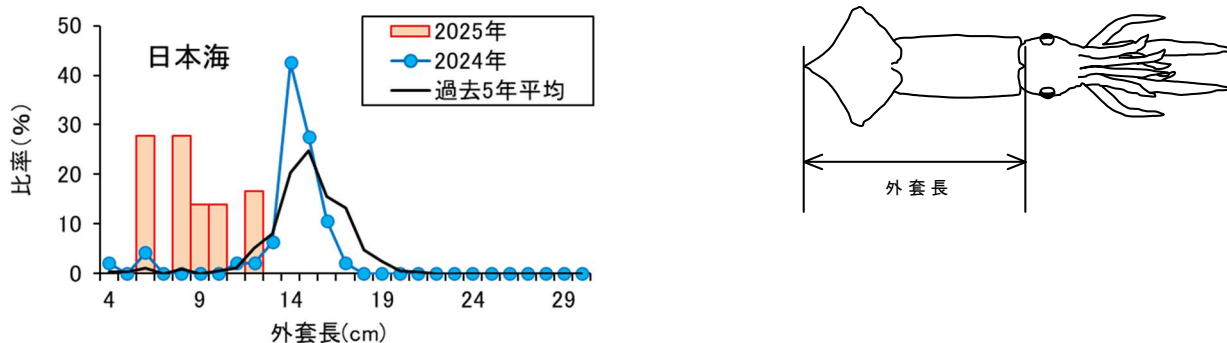


図3 日本海スルメイカの外套長組成

※本調査は水産資源調査・評価推進委託事業により実施しました。
（函館水産試験場調査研究部 TEL：0138-83-2893、FAX：0138-83-2849）